

3.2.4 国内外への情報発信

21 世紀 COE プログラムの実施に伴い、その成果を国内外に広く発信している。一例として、21 世紀 COE プログラム開始前後の 5 年間(平成 10 年度～平成 14 年度と平成 15 年度～19 年度)での成果を数値で比較すると、① Physical Review Letters 誌や Applied Physics Letters 誌を始めとした英文国際学術雑誌への原著論文の掲載本数・・・106.9%増、②国際会議での招待講演数・・・2.5%増、③国際会議での発表件数・・・213.9%増、④大学院博士後期課程の修了者数・・・12.5%増 が挙げられる。これらの数値は、本拠点の研究水準が本プログラムの実施により飛躍的に向上したことを端的に示している。

また、創出した原子論的生産技術に関して国内外の研究者と直接議論し、交流を深めるための合計 14 回のシンポジウムを開催した。特に、平成 18 年 10 月と平成 19 年 10 月に行われた二回の国際シンポジウムにおいては、その内容を学術雑誌“SCIENCE AND TECHNOLOGY OF ADVANCED MATERIALS”と“Surface and Interface Analysis”の特集号として収録し、より広く成果を世界に発信した。これにより、幾つかの研究課題において、海外有力研究拠点との国際的共同研究が進みつつある。これは、拠点の国際化という観点で見た際に、プログラム開始前と比した大きな進展であると言える。

さらに、「セミコンジャパン」や「イノベーションジャパン」等の国内を代表する大規模な展示会において、得られた成果の一部を展示した。実用化を意図したこれらの活動により、国内製品化企業との連携が強化され、拠点形成前と比して共同研究契約数が大幅に増加した。

この他にも、プログラム実施期間中に 240 名を超える高校生の見学を受け入れ、本拠点で開発された原子論的生産技術の紹介を通して、先端科学技術への学習意欲の育成に貢献した。また平成 16 年 10 月には、本拠点において教育・研究を実施する“場”となる「大阪大学 21 世紀プラザ」の完成記念式典が挙行され、200 名を越す参加者の来場を得た。